

引き続き午後 6 時 30 分から 2 階「安土の間」で開催された懇親会は、山口新副会長の司会により会員 94 名、現職の賛助会員 86 名の合計 180 名の盛大な宴となりました。岡会長の挨拶に続いて壇上で消防局幹

回交温める懇親会

総会は冒頭、消防職員として職務に殉じられた各位への黙祷に始まり、続いて去る 5 月 18 日（水）に開催された理事会において承認された平成 28 年度事業計画等について報告がなされました。

議案の承認、報告

また、各役員人事については理事会で推薦された岡会長が再任された他、長年当会の発展にご尽力いただいた松浦さんの勇退に伴い、新たに副会長に委嘱された山口さんを始めその他の役員について報告がありました。（詳細については別表をご覧ください。）

平成二十八年度 大阪消防清風会総会開催

平成 28 年 6 月 21 日（火）午後 5 時 30 分から中央区の「ヴィアーレ大阪」



大阪消防清風会会報
(第 55 号)
発行
大阪消防清風会
大阪市西区江戸堀 1 丁目 24 番 18 号
(一財)大阪消防振興協会(内)
TEL.(06)6444-2155
発行人 岡 武男



部を紹介があり、名誉会長である藤井消防局長による乾杯の発声で懇親会が始まりました。

懇親会は立食のパーティ形式で、参加者は自由に移動しながら、其処かしこで出会う先輩や後輩、上司や部下、同僚たちとそれぞれの思い出話や近況などの話題に花が咲き、会場のあちこちで歓談の輪が広がりました。

楽しく和やかな雰囲気の中、恒例となったビンゴ大会がお馴染みの山中副会長の軽妙な進行で始まりました。ビンゴ大会も回数を重ね参加者も手慣れたもの、今年から新たに前面のスクリーンに「当たり番号」が映し出される設備も導入され、例年以上の盛り上がりとなりました。

ビンゴ大会の賞品が全てなくなり、まだまだ話の輪があとちこちで広がる中、お開きの時間が近づいてきました。楽しい時間が過ぎるのはあつという間です。

中締めは昨年までの懇親会の司会を務めていただいた田村副会長。ビンゴ大会の途中から進行にも参加し、その勢いで元氣よく声高らかに来年の再開を祈念して懇親会を締めくくっていただきました。（事務局から）

当日はお忙しい中、総会懇親会に多数のご参加をいただき誠にありがとうございます。懇親会は本会の目的である会員相互の親睦を深め、現職職員との融和協調を図る絶好の機会と考えております。来年も更に多数の方のご参加をお待ちしています。

此花消防署のあゆみ
明治 43 年 4 月 1 日、消防署朝日橋分署として開設し、数々の変遷を経て、昭和 40 年 12 月 27 日四貫島霞町（春日出北 1 丁目 8 番 28 号）の現在位置に移転。平成 27 年 11 月 25 日庁舎建替え 2 期工事完了に伴い住所変更（春日出北 1 丁目 8 番 30 号）し事務を開始。



今回は、平成 27 年度に竣工しました此花消防署と福島消防署をご紹介します。

消防庁舎概要

	此花消防署	福島消防署
敷地面積	1181.74㎡	1161.91㎡
	建築面積	1047.06㎡
	延べ面積	3527.48㎡
庁舎棟	構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造
	地上 5 階建て	地上 7 階建て
	最高高さ	20.89m
	建築面積	32.08㎡
訓練塔	延べ面積	59.73㎡
	構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造地上 3 階建て
	最高高さ	10.48m

消防署ビフォーアフター

大阪市消防局においては、長年にわたり消防庁舎の耐震化を重点施策として奔走して参りましたが、庁舎耐震化事業については、平成 27 年度末をもって完了いたしました。



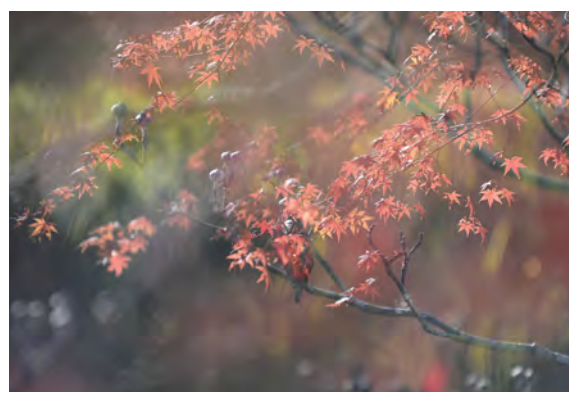
「山里春景」 池田 秀範



「都会のゆり園」 鈴木 芳夫



「厳冬の朝」 田中 勇三



「華やぎの秋」 塚由 克巳

清風会写真同好会

「ひまわり会」



「モネの池」 名小路谷 嘉英



「輝き」 赤松 英司



「太陽柱」 平田 公宏



「夜の茅葺」 堀口 善克



「秋祭り」 松井 昭

秋の撮影会のご案内

平成 28 年 11 月 12 日（土）13 日（日）に、長野県「阿寺溪谷」方面においてクラブ撮影会を開催します。当クラブの年間活動としては、春と秋の撮影会及び作品展（中央区役所あべの学習センター）テーマに基づく写真コンテスト、随時開催する有志撮影会などを実施しています。

写真に興味のある方、いままら始めようと思っっている方…お気軽にご参加ください。

〔事務局〕 中央消防署 管理担当 名小路谷（阪南支部）

携帯 090-81469343

メール nakoyan119@gmail.com

部長 鈴木芳夫（南支部）

贊助會員一覽表

[illegible]

隨筆

背
中

藤原 肇

年のせいなのだろう。昔のことをあれこれ考えるようになってきた。特に今思うのは、いわゆる「親父の背中」についてなのだ。というのも、父親を早く亡くした私には、子供の立場がよくわからないだけに、果たして、息子が私の背中をこれまでどんな風に見ていたのか、大いに気になるようになった。

30年以上も前、息子がまだ幼稚園児のころ、私は、広報という報道機関への消防の窓口のような仕事についていた。消防の新たな施策や各種イベントなどがあれば、報道各社に資料を提供して、ニュース

が、ネタを探しにきた記者との雑談、「消防あるある」のような話の中から「記事が生まれる場合もある。当時、自分にも息子がいたからだと思うが、気になっていたのが、親子で消防という職員が意外と周りにいたこと。この話がある社の記者にする」と、ほかの職種と比較するデータはなかったものの、事実、親子3代大阪消防の職員がいたおかげで、取材される運びとなった。消防は、小さい子どもたちの憧れの仕事でもあり、なにより消防士の背中には、親父の背中として結構絵になるのではないかと、自分をその立場に密かに置き換えながら、取材に立ち会っていたのを思い出す。その結果は、結構大きな記事として、新聞に掲載された。

息子が小中高と成長していく姿を思い出すと、親子で似ているところが結構あ

るようだ。ふたりとも球技が苦手であちらかという格闘技系。ジャンルはまったく違うが「応音楽が好き。コレクションが趣味で、息子はフィギア系。こちらは模型の鉄道系で世界の消防車も揃えている。そしていよいよ就職を考える時期となり、初めて本人の希望を聞いてみることにした。」「こんな仕事をするつもりなんや」と尋ねると、至って簡潔な返事がそに。「おとんみたいな公務員だけには、なれへんわ。しっかりとしたい思いがあるようでそれはそれでいいのだが、自分の中にあつた、淡い期待が「瞬にして消えてしまうのは、なんとも言えず寂しいものだ。まあ、小さいときから、フィアーアツらしい姿を見せたこともないし、話をしたこともない。そんな状況で憧れの消防士を父親から見けるのは、到底無理なこと、頭のすみでわかつてはいたのだが…。」

◇

思い通り息子は民間の会社に就職し、結婚して今は東京に住んでいる。年に数回孫を連れて、顔を見せにきてくれる。孫の可愛さはいまさら言うまでもないが我がコレクションに手を出さないかハラハラドキドキだけが頭を痛める。多少の損壊は覚悟を決めているのだが、ところが不思議、消防車には、じつと見るだけで触れようとしなない。大したものだ妻に話せば、どうやら息子は孫に「ジイジは、消防のお仕事をして、バを育ててくれた。だから、消防車はとても大切なもの」といつているらしい。答えが出るまで長い時間がかかったが、少し背筋が伸びたような気がした。



消防の思い出

古畑 良平

昭和23年2月5日に発足した自治体消防・大阪市消防局は現在、輝かしい発展を遂げ、なお未来に向けて発展中である。この原動力となったのはその時代、時代にいた消防人の知識と汗の結晶、そして血のじむような努力があったことを忘れてはならない。奇しくも私が生まれたのはこの発足の3日前の2月2日であった。長い消防人生の中で各署の記念誌を編纂し、永年の「大阪消防誌」の編集に携わり、その集大成ともいえる「大阪市消防の歴史50年史」の編纂に携われたのは何かの縁であろうと思う。この50年史には特に想いが深い。2年にわたる編纂作業はゼロからの出発で、予算の編成から始まる編纂は筆舌に尽くしがたい苦労があったものの、自身の消防に対する思いも変化を遂げた2年であった。

50年という歳月は資料の四散を招いていた。30年史の編纂で少し携わった経験から資料の存在を覚えていたものの、組織の改革などで消失、あるいは処分されたのか多くが無くなっていた。これは署においても同じであった。

確かに30年史の編纂では消防学校の片隅に「消防博物館」が設置されていた。ここには消防の歴史遺産が展示されていたはずなのであるが、当時の職員証言ではある日、校庭に博物館の資料や器具類をぐみとして山はど積んで焼却したとのことであった。さすがにこれは驚いた。貴重な消防遺産、価値への理解がない結果だと痛感した。反面いいこともあった。発足当時の消防学校1期生の方や、それそれの時代の職員の方の貴重な意見を聞く

ことができ、生きた資料として採択できたことは大きな収穫であった。

中でも、初代局長松島氏は文化面や政
策面では卓越した方であつたことが、聞き
とる中で伝わってきた。その一例に、ある方
の証言を得た時である。その方は、今は無
き名艇と言われた「明光丸」の建造に携
わつた方であつた。局長の命を受け、全くの
ゼロからの出発であつたとおしやつていた
資料や経験のない者が、アメリカの資料や
国内の資料を詳細に読み解き、それを基に
デザインからエンジン、消防ポンプの設計に
携わり、日夜、血のにじむような努力を傾
注されたことが、当時の数冊にわたる資料
ノートにびっしりと書き込まれている。デ
ータや計算式等を見て、ただ驚きと感動、畏
敬の念に浸つたことは今でも忘れない。

また時代に即した機器の開発もいろいろな方にお聞きできた。特に今の防火服の元となる、それも火中に入れる服ということになり、「潜水火服」の開発や実際の実験で火中に入り大やけどを負ったことや、また水陸両用の消防車の開発に携わられた方、タレット放水砲の開発、赤バイに専念努力された方など、その時代の苦労と熱意が聞き手には現実味となり、生き生きとした資料が銀幕のように脳裏を刺激されたものである。

さらに発足当初、間もない署での職員的生活様式は、ここには記されないが、かなり興味ある生活をしていたようである。

このような中で迎えた自治体消防発足50年、私も齢50年を迎え、同時に50年史を発刊することができた。残務整理にあたり聞き取った貴重な数々の資料は、時間がなく胸に収めた貴重な資料はコンテナに収め編纂を終え、輝かしい未来消防100年に向けて資料類等は静かに眠りについた。人はその時代を作り貴重な歴史を刻む

—賛助会員とは—

会則に基づき、大阪市消防職員で司令長以上の者、その他本会の趣旨に賛同する者で、清風会の発展を支援する会員です。

いざという時のために

一般財団法人 全国消防協会 職員福利厚生事業

団体割引 30%、損害率による割引 10% 等適用

約 **40%**

消防退職者医療保険

団体総合生活保険 (医療補償)

募集期間：12月～2月

こちらは概要のご案内になります。各保険の詳細については、パンフレットをご参照ください。取扱商品、各保険の適用範囲や保険料は保険会社により異なりますので、ご加入の際は必ず「重要事項説明書」をよくご確認ください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

お問い合わせは ☎ 0120-065-988 (平日 9時00～17:00)

その他各種
損害保険全般



決して組織や機械ではなく個々の人の歴史であることを自覚した50年であった。

原稿募集

本号の発刊にあたり、会員の皆様からの
ご投稿、誠にありがとうございます。
本誌を皆様の「会報」としてさらに充実
したものにしたいと存じますので
随想、思い出、詩その他身近なユースなど
幅広いジャンルで原稿を募集しております。
皆様のご投稿をお待ちしております。

